

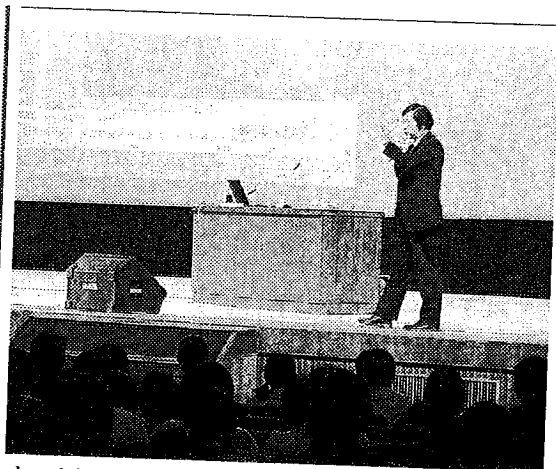
身近な話題で ナノテク学が

宮城一女高で講演会

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SH)に指定されている宮

城一女高(仙台市青葉区、舟越総真校長)は先日、全校生徒を対象にしたナノテクノロジー(超微細技術)講演会を開いた。

東北大金属材料研究所の川添良幸教授(計算材料学)が講師となり、「スーパーコンピュータによるナノテクノロジー用新物質設計」と題して講演。写真。川添教授は「半導体の集積技術は十年以内に限界を迎えるだろう。今後は原子や分子を組み上げた高性能の素材が活躍する」などと、ナノテク時代の可能性について説明した。



聴講した約千人の生徒らは、分子レベルの粒子が皮膚に浸透し、紫外線を吸収する「ナノ化粧品」ができるといった身近な話題に興味津々。三年生の吉田恭子さん(こ)は「文系の私には難しい話もあったが、視野が広がった」と話した。